

説明文は
改行し
存心=は
多の

習っているにも漢字が多といいよ

りんかさん



うま
イ。

すばらしい感想文になったね

このまま出していいけど

根性あれば(笑)もう一度書き直してみよう



がんばる

川は生きているを読んで

井田 凜香

川の歴史について考えるとき、それは水の
話であり、緑の話であり、そして土の話でも
ある。なぜなら、これらはけんなつなが、て
いるからだ。我が家は山や川の近くへよく
キャンプへ行く。
ある日、キャンプ場で夜中に大雨が降った。
となりのサイトは、土だけのサイトだった。
そのこのサイトは水たまりだらけで、テントが

しんがしていた。

父は必ずキャンプサイトを選ぶことができ
るときは、選生が住んでいるところや、落ち
葉が積れ重なっているところを選ぶ。なぜそ
のようは所を選ぶのか父に聞いた。すると父

山の天気は変わりやすいからね。雨が降る

父頭 答えた。

なごもいさか

道が落ち葉の積れ重なるサイトを選んでい

修飾する語と主語は
近くに置く方が読みやすいから。

語が異なる場合は、主語を

先に
あつ
れりやすい。

昔の日本人は

いいことよ

行を交りなして
いいよ

我が家は、水たまりはなく、風前にはかわ
 いていた。落ち葉や芝生は、まるでスポンジ
 のように、水を吸い込み、しん水かひ守、て
 くれた。つまり、自然とりまくづきあ、てい
 くにはどうすればいいのか考えたとき、私は
 自然の中で体験することが、第一歩だと思
 う。水に逆られず、自然の性質を、上手に利用
 しなかり水を治めようとしたのが日本人の水
 の治め方だ。た、昔の日本人の川との付き合
 い方は、今とは全くちがう。洪水をも受け入

れ、できるだけ土に返し、水が一度に川へお
 しよせないよう心をくわいた。

私は

六月に学校で米作り体験をした。稲を一つ
 おっ手で植える作業は想像より、はるかに大
 変で、中腰の姿を保つのが苦しく、兄元はド
 ロでコントロールがきかない。暑さの厳しい
 中、汗まみれ、ドロまみれで植えた。

一ヶ月後、担任の先生が

稲の様子を見てきたけど、稲が一本のもの
 もあれば、五本以上のものもあるよ！

→ニハ姓ニカニ
合けろと
いいろ

ニハ姓をニカニ
合けろと
いいろ

内容と関係が薄く、
「有るこま」しか存。

と苦笑いで報告してくれた。

あれだけ努力して植えたのだから、そのくらい
の出来がと少し、残年に思ひ気持りと昔の人の
ほどだけ苦勞して田植えをしていたのだら
うかと、尊敬の念を抱いた。それほどまで大
切な作業を無駄にしてしまう洪水を受け入れ
自然とつきあうには、人間も、ときにはがま
んしなければならぬ。

私はこの本と田植え体験から、人間は時間
をかけて自然から学び、力を合わせて川と共

存していたのだと感じた。未来を創る私たち

にと、で、自然体験こそが筆者の言う「サ
ン」なつながら、ている」ということを身をも
て

知ることか、びびる貴重な機会だ。

人間だけに都合のよいように作られたダム

や川の堤防を元に戻すことも止めることも
私にはできない。しかし、川へ行き生物を調

べたり、遊んだり、学ぶことを続けたい。

それは、川とうまくつきあ、ていくヒントを見

つけ未来へ活かすことができると思っからだ。